

トーキョーロード  
嘶家人生 山あり、谷あり

〔 第3回 〕

## お茶出しも大事な前座修業

✦ 文 林家木りん Text by Kirin Hayashiya ✦

弟子入り修業と聞いてみなさんはどう想像されますか？

おそらく大変なイメージをお持ちだと思いますが、その通りです。今、最初から前座修業しろって言われたら間違いなく答えはNOです。二度と前座なんかに戻りたくないです(笑)。ですが、修業はしてよかったなど今振り返ると思います。

「若いうちの苦労は買ってでもしろ」とよく言いますが、その通り。今回は前座修業について書いていきます。

僕は大学を中退して19歳から弟子入りし、約4年半の修業期間をやらせて頂きました。落語の修業は師匠によって違うのです。師匠宅に毎日通う弟子もいれば仕事の時だけ来る弟子。あるいは弟子入りしても寄席だけ通っている弟子と様々。

ちなみに我が木久扇一門は師匠宅に通い、掃除や師匠の身の回りのことを毎日しておりました。なので師匠の行動などがわかり、すごく勉強になりました。辛かったですが、今思えばやつてよかったと心から思います。

このようにいろんな修業形態がありますが、共通しているものがあります。それは寄席働き。

東京には5カ所の寄席があり、365日休みなく営業しております。こちらに前座はそれぞれ配属され寄席働きをします。

この寄席でもやるのがたくさん！

師匠方にお茶を出し、着物の着付けのお手伝いや高座返し(演者と演者の間で座布団を返すこと)や出囃子の太鼓を叩いたり、とたくさんあります。

お茶を出すのにもただお茶を出しければいいわけではなく、師匠の好みによって変わります。

寄席に師匠方が来られたら三回お茶出しをしなくてはいけません。

まず来た時に一杯、落語の高座に上がる前に一杯、そして落語終わりに一杯と三杯は出します。

そこに師匠方の好みが変わり、A師匠は寄席に来た時は熱いお茶、高座前はお白湯、高座下りたら冷たいお茶、というようにめんどくさい師匠もおり、前座はこの好みを把握してなくてはいけません！出すタイミングも重要で、その師匠が落ち着いた頃を見計らってお茶出しをするのです。

お茶だけでもざっとこれだけあります。

めんどくさいようですが、これらには意味がありまして、このことをすることによって空気を読む力や相手との間合いの詰め方などを学びます。ですのでお茶出しも大事な修業の一環なのです！

来月に続く。



## profile

1989年東京浅草生まれ。父は元大関・清國勝雄。

2009年林家木久扇に入門

2013年二ツ目昇進。

身長192cmと、落語協会一の高身長！

趣味は相撲、野球、読書、競馬、マラソン、空港見学。

空港についてエッセイ、コラムを書くほどの空港マニア。

初の著書『師匠!』発売中

## 独演会のお知らせ

日時:4月13日(土)

13時開演(12時半開場)

会場:聖徳記念絵画館(明治神宮外苑)

チケット:前売り 2,800円

当日 3,000円

ご予約お問い合わせ:オールドキッズ

電話:045-309-1007

(受付時間 平日11時~18時)

メール: kirin.kirin.kirin24@gmail.com